

ICPD30 及び AADPD10 に向けた

アフリカ・アジア国会議員会議

2023 年 10 月 24-26 日

ルワンダ・キガリ

要旨

2023年10月24~26日、アジア人口・開発協会（APDA）並びにアフリカ人口・開発議員フォーラム（FPA）は、ルワンダ国会と共に、国連人口基金（UNFPA）及び日本信託基金（JTF）の後援を受けて、来年の国際人口開発会議の30周年（ICPD30）及び今年10周年となる人口と開発に関するアディスアベバ宣言（AADPD）に向けたアフリカ・アジア国会議員会議をルワンダ・キガリで共催した。

キガリ会議の目的は、ICPD アジェンダに向けた取り組みを見直し、その目標を新たにするとともに、ICPD 行動計画の各国の法律・政策への統合を促進し、効果的に法整備を進め、ICPD とマプト行動計画を実施するための取り組み、経験、手段について共有し、理解を深めることであった。

キガリ会議は、1994年にエジプト・カイロで開催された歴史的なICPDが2024年に30周年を迎えることを記念し、人間を中心とした開発、平和、平等な権利、そして人口に対する選択を尊重する政策に焦点を当てて議論を行った。アフリカでは、2013年の「人口と開発に関するアディスアベバ宣言（AADPD）」を通じて、ICPDへの取り組みが推進され、人口と開発に関する地域別の提言やICPD行動計画の完全実施に向けたガイドラインが提示された。その内容は、(i) 尊厳と平等、(ii) 保健、(iii) 移住地と居住地、(iv) ガバナンス、(v) データと統計、(vi) 国際協力、(vii) パートナーシップの7つの分野にわたる88のコミットメントであり、AADPDは国家の開発計画、政策、プログラムの中心に据えられてきた。従って、このアディスアベバ会議から10年目の節目となる2023年に開催されるキガリ会議は、その間の進展、目標達成に向けた課題、進捗が遅れている分野で取り組みを加速させるための計画を見直す機会となった。

1 日目：会議（2023 年 10 月 24 日）

開会式

歓迎挨拶：Abdul Rashid Hassan Pelpuo 議員（ガーナ）・アフリカ人口・開発議員フォーラム（FPA）議長

Donatille Mukabalisa ルワンダ国会議長、越智友佳子 駐ルワンダ日本大使代理、Kwabena Asante-Ntiamoah UNFPA ルワンダ事務所長、アジア人口・開発協会（APDA）、そして国際家族計画連盟（IPPF）の出席を歓迎する。

ICPD30 及び AADPD10 に向けたコミットメントの達成において、進捗状況を議論するためにキガリで国会議員会議が開催され、挨拶をできることを大変嬉しく思う。FPA 役員の合意に基づいて、今年の会議開催地としてルワンダの首都キガリが選ばれた。ルワンダは主要な人口問題の解決に向けた取り組みにおいて先駆的であり、ルワンダの取り組みを学ぶことは、FPA メンバー国にとって有益である。会議の開催を受け入れてくれたルワンダ国会並びにルワンダ政府に感謝する。

ICPD と AADPD の実施に関する各国の進捗状況に関して、各国や地域内の政策についてアフリカ諸国の共同提言を行う必要がある。アフリカは長い戦いの歴史を経て植民地支配から独立を果たし、統治権限を有したという歴史があるが、その過程で困難に直面した。アフリカは資源が豊かな国であるにも関わらず、イニシアチブの欠如から貧困に陥った。2023 年現在でもアフリカは世界で最も貧しい地域であり、この状況を改善する必要がある。

FPA 役員たちは 2022 年にアディスアベバで選出されて以来、様々な活動を行ってきた。JTF の支援を受けて FPA 議長（ガーナ）、副議長（ケニア）、セネガル、ジブチの役員からなる 4 人のチームがタンザニア・ダルエスサラームで FPA 憲章の草案、戦略計画の見直しを行った。これらは 2022 年のアディスアベバ会議で FPA 総会に提出されたものである。2023 年 8 月のダルエスサラーム会合において、以下の結論に至った。

1. 財務責任者を雇用し、FPA の銀行口座を開設する。
2. 新たな FPA の戦略計画を立案する。
3. 上記を正式に決定するためにウガンダで FPA 役員会を開催する。

FPA 活動の一部を実施するための資金がまだ確保できていないため、各国政府に財政的支援を働きかけるよう FPA 加盟メンバーに呼びかけている。また、FPA 活動の実施推進のため、FPA 事務局をガーナの首都アクラに設置することも合意された。2023 年 4 月には、「G7 広島サミットに向けた世界人口開発議員会議（GCPPD2023）」が日本で開催され、Frederick Outa FPA 副議長を筆頭に、Pemmy Majodina 議員（南アフリカ）、Hassan Omar 議員（ジブチ）が FPA を代表して参加した。最後に、UNFPA の人的・財政的支援に謝意を表し、この会議を通じて、メンバー同士が相互に知識を深め、ICPD30 と AADPD10 の公約の実施を加速させるよう求めたい。

挨拶：越智友佳子 在ルワンダ日本大使館臨時代理大使

世界はここ数年、COVID-19、気候変動、疾病、紛争などの問題に直面している。また、アフリカは特有の開発課題に直面しており、これに対処する必要がある。アジアについては、日本や他のアジア諸国では出生率が急激に減少しており、独自の開発問題が生じている。UNFPA 及び JTF の支援により、ここルワンダ・キガリで会議が開催されることを喜ばしく思う。

2013 年に、エチオピアでアフリカ諸国が AADPD を採択してから 10 年が経過した。AADPD は、ICPD を実施するための第一歩であり、政府、市民社会組織、その他の協力パートナーが人間中心の開発と行動計画を実施するための基礎を築いた。

人間を中心に据えた開発が日本の開発における柱であり、これに沿って持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みを加速させる必要がある。その一例として、日本政府はルワンダで以下のような開発活動を行っている。

1. UNFPA と協力し、難民キャンプにおいて、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（SRHR）及びジェンダーに基づく暴力（GBV）に関する啓発プログラムを実施する。
2. 品質の良い水を供給する。
3. 母子保健を改善する。

日本は、世界の人口問題に取り組む上で、引き続き人間中心の社会的アプローチを推進する。

挨拶：Kwabena Asante-Ntiamoah UNFPA ルワンダ事務所長

AADPD 行動目標、ICPD30、SDGs、アジェンダ 2063 の達成において、国会議員の役割は非常に重要である。1994 年にカイロで開催された ICPD では、SRHR とともに、多くの人口問題が承認された。2013 年のアディスアババ会議では、アフリカの国会議員がアフリカのための独自の解決策を見出すために AADPD 行動目標を採択した。従って、国会議員は、それぞれの出身国で AADPD 公約を実施するために、引き続き自らの役割を果たすことが重要である。

2023 年 4 月からは、2024 年に向けた過去 30 年間における ICPD アジェンダ実施の総括と、アフリカにおける AADPD 10 年目のレビューが開始された。UNFPA は、アフリカの国会議員に対し、政府に対する監督と説明責任、国民の代理人としての役割、そして国家予算に対する承認などの成果に称賛を送りたい。

2023 年 11 月にザンビア・ルサカで、保健分野の専門委員会（Technical Committee on Health）が開催され、AADPD の進捗状況、女性及び若者の保健分野の未達成の課題が見直される予定である。

アフリカにおける人口動態の変化は、以下のような特徴がある。

1. 人口の 42%が 50 歳未満である。
2. 10 歳から 34 歳の若者が人口の 33%を占めている。

"In the Africa we want (我々の望むアフリカ)"というスローガンでは、若い世代の増加へと人口動態が変化中、若者への賢明な投資が必要である。若者は変革を切望している。一部の地域では改善が見られるものの、GBV、女性性器切除（FMG）、思春期の妊娠は、東・西・南部アフリカにおいて依然として深刻な問題であることを指摘したい。中央・西アフリカでは依然として多くの 18 歳未満の少女が婚姻している。アフリカでは 2010 年以降、HIV/AIDS の新規感染が 20%減少しているが、こうした進歩にも関わらず、新規感染の多くは若者の間で起こっている。さらに多面的な貧困問題に取り組む必要性を強調したい。モザンビーク、コンゴ民主共和国、ニジェールでは、紛争の増加が開発の妨げとなり、人々が移動を繰り返している。また、サイクロンなどの気候変動は、アフリカにおける ICPD、AADPD、SGDs の実施を遅らせる要因となっている。そのため、この会議で次のことが達成されることを期待したい。

1. 実証に基づく政策提言の強化。
2. 監視と説明責任の拡大。
3. 立法措置の推進：アフリカにおける枠組み・政策の実施による進展。
4. 実証に基づく適切な予算編成と影響力の高い政府介入。

UNFPA は、ICPD とアジェンダ 2063 の実施のため、FPA、東アフリカ立法議会（EALA）、アフリカ議会（PAP）と引き続き協力していく所存である。最後に、アジアとアフリカの国会議員の人口問題を解決するための共同での取り組みを通じて、アフリカにおける SRHR が確実に実施されることを期待する。

開会宣言：Donatille Mukabalisa ルワンダ下院議長

まず最初に、全ての出席者を歓迎し、キガリ会議で行われる議論の基調となる講演を行う全ての参加者に感謝の意を表明したい。また、ルワンダをこの会議開催地として選出した主催者に感謝の意を述べたい。この会議において、全てのメンバーが議論の中で有益な知見を得ることを期待する。国会議員に対し、ICPD と AADPD の公約に関して以下の項目について議論するように求めたい。

1. これまでにどのような成果を上げてきたか。
2. これまでの課題は何か。
3. 国会議員としての役割は何か。

国会議員は、人口と開発に関する適切な法律を立案し、それが市民の生活に与える影響を見直す必要がある。ルワンダの例を挙げると、ルワンダ議会は人口問題を提唱する主要なプラットフォームとして、2003 年に「人口と開発に関するルワンダ国会議員ネットワーク（RPNPD）」を設立した。1994 年のカイロ会議以降 SRHR、環境、若者と女性の問題、またジェンダーに配慮した法律が制定された。今回、午後のセッションに女性の問題を議論する時間が設けられたことに注目し、ジェンダー問題での成果を振り返ることを促したい。ルワンダの例として、SRHR に関する議員立法により、乳幼児死亡率が 1,000 出生当たり 227 件であったのが、2022 年には 1,000 出生当たり 40 件にまで大幅に減少した。女性が医療施設を利用する割合は、2002 年の 27%から 2022 年には 93%にまで改善した。

この会議は、ICPD と AADPD のコミットメントの達成に向けて、各国の優れた取り組みを共有し、互いの経験から学ぶ場であるため、国会議員の積極的な参加を求めたい。FPA 議長、在ルワンダ日本大使館、そして主催者の APDA に感謝し、国会議員の実りある協議を祈願し、キガリ会議の正式な開会をここに宣する。

セッション 1：持続可能な開発のための ICPD30 及び AADPD 実施における国会議員の役割（国民代表、立法、予算編成、監督、世論形成）に関するハイレベルパネル

Simon Moabi 議員（ボツワナ）・PAP 代表

南アフリカのミッドランドに本部を置くアフリカ連合の機関である全アフリカ議会（Pan-African Parliament）を代表し、PAP の目的を以下に提示したい。

1. AU 政策の推進・監督
2. アフリカにおける人権と民主主義の促進
3. グッドガバナンスと透明性の確立
4. アフリカの開発推進

また、国会議員の役割についても以下の通り強調したい。

1. 各選挙区の人々を代表すること
2. 政策実施における監督としての役割（妊産婦と子どもの死亡率の削減など）
3. 開発のための国家予算の承認、規則及び政策の形成

また、これらの委員会の役割については、規則 26 で説明されている。

また、ICPD 及び AADPD の実施において、市民社会の関与は極めて重要である。市民社会や NGO は現場で人々のニーズを認識しており、国会議員が議論や採択のための政策や法律を策定する際に、市民社会や NGO を巻き込むことが重要である。

Rosie Bistoque 議員（セーシェル）・SADCPF 人間・社会開発・特別プログラム委員会議長

1994 年から 25 年以上が経過した今も、アフリカの国会議員は ICPD と AADPD の公約の履行に際し、課題に直面している。特に SRHR 分野での積極的な政治的リーダーシップの欠如が、公約の実施を遅らせる一因となっている。10 月 10 日は世界食料デーであるが、アフリカ南部は依然として栄養失調の問題を抱え、食料安全保障は影響を受け、その結果、平和と安全が脅かされている。

また、アフリカでは HIV/AIDS などの感染症が依然として懸念されており、産科瘻孔（出産により産道に穴が開く疾患）などの疾患が世界中の多くの女性に影響を与えている。SADCPF は、「児童婚の根絶と既に結婚した子どもの保護」や「ジェンダーに基づく暴力」に関するモデル法を制定し、SRHR 問題を実施するための画期的な変革をもたらした。国会議員たちは、妊産婦、LGBTIs、若者、児童労働に従事する孤

児、そして子どもに十分食事を与えられないシングルマザーの声を代弁していることを再確認したい。避妊具の使用は、従来からの文化的規範の問題を提起した。公共財政管理については、人口問題に関する議会予算を国家予算に関連付ける必要がある。

2023 年、議会は目標を達成するために、より集中して方向付けを行う必要があり、協力機関は人口開発目標を達成するためのアフリカの国会議員の取り組みを支援する必要がある。ウガンダの例として、10 代の妊娠が経済的な問題に関連していることから、10 代の少女たちに経済的に力をつけることで、金銭のために性的な誘惑に駆られたり、妊娠するリスクを減らす取り組みがある。

Fatuma Ndongiza 東アフリカ立法議会（EALA）議員（ルワンダ）

EALA は、EALA 憲法第 49 条に基づき、東アフリカ地域における共通の課題に取り組むために東部アフリカ諸国によって設立された。開発の中心には個人の権利があり、特にリプロダクティブ・ライツを通じ、女性と女兒を支援している。29 年前の 1994 年にカイロで 179 カ国の政府が会議を開催した際、政治的公約が採択された。そして 2019 年、カイロ会議から 25 年後のナイロビサミットでは、東アフリカの加盟国に保健予算の増額を促した。

このサミット後、成果を上げている国もあれば、上げていない国もある。そのため、進捗状況を示す定量的データが必要である。この点で、SADCPF は加盟国からのデータ収集に貢献できる。東アフリカ共同体の人口は約 3 億人で、EALA はアフリカ連合の統合に関して以下を 4 つの柱としている。

1. 雇用と起業家精神
2. 教育と技能開発
3. 保健と福祉
4. 権利、ガバナンス、若者のエンパワーメント

公約実施のためには FPA メンバー国が実施プロセスについて合意することが不可欠である。

Frederick Outa 議員（ケニア）・FPA 副議長：

EALA の ICPD の取り組みに関して、EALA は 17 の協力分野で ICPD 取引、保健などに関する 85 の法案を可決した。東アフリカ共同体は HIV/AIDS に関して、あらゆる形態の差別から国民を保護している。また FGM 防止法案も提出され、SRHR に関連する EALA 法案に関する公聴会も開かれた。その一つは、健康対する有害な行為（FGM 等）の禁止であった。文化的・宗教的規範は、国会議員が ICPD や SRHR に関する法案を策定・実施する上で影響を与えている。

もし国会議員が ICPD の問題について知らなければ、それを実施することはできない。また、国会議員が特定の法案を支持するよう人々を啓発するためには、宗教家や伝統的指導者たちとの会合も必要である。例えばルワンダでは、婚姻可能年齢は 21 歳であり一部の EALA 諸国のように 18 歳ではなく、女の子はより長期間就学することができる。この結婚可能年齢はすべてのアフリカ諸国において統一される必要がある。

討議・Q&A

Anthony Akol 議員（ウガンダ）：アディスアベバ宣言以降、発表者が何をしてきたかを尋ねたい。

Amb. Fatuma Ndangiza 議員（タンザニア）：閣僚も権能上の国会議員であるため、EALA 議会で可決された決議の影響はどのようなものであったか尋ねたい。また、障がい者や LGBT の人々についても懸念しており、アフリカ大陸が「誰一人取り残さない」公約のために、AADPD 行動目標に彼らを含める必要がある。

Aboubakary Ngaide 議員（セネガル）：移民問題に対処するための最新の方法について、現在のところ何の情報もない。PAP や AU がこの問題に関してどう取り組んでいるのか、情報を共有して欲しい。

Marie Rose 前議員（カメルーン）：障がい者について、彼らのために十分な対策が講じられているかどうかを懸念している。また、性的指向の異なる人々の問題も提起したい。この問題について法的拘束力のある文章はない。さらに PAP は、アフリカの一部で起こっているクーデター、レイプ、戦争についてどういう見解を持っているか尋ねたい。

Elvis Donkoh 議員（ガーナ）：宗教的・伝統的指導者は、早すぎる結婚、女性器切除、及び妊婦の病院での分娩を促進するための法律制定プロセスにおいて早期から関与すべきである。AU も女性性器切除を罰する法案を承認しており、国会議員が伝統的指導者や宗教的指導者と協力し、これらの悪習を取り締まることが効果的である。

Simon Moabi 議員（ボツワナ）・PAP 代表：国会議員に対し、PAP 決議が加盟国によってどのように実施されているか、またどの様な進展があるか具体的に尋ねたい。

Majur Babur Ajal 議員（南スーダン）：南スーダンは、宗教指導者にこうした法案の是非を認識してもらうことを含め、中絶法案の導入に後れを取らないように尽力している。また、各議員の国家目標達成を支援している。

Issa Mardo Djabir 議員（チャド）：紛争下では、ナショナリスト／パトリオットに関する問題の改善を進める必要があった。国会議員がどのように公約を実施するかが課題であった。どの国でも全ての法律を実施するためには、コミットメントが必要である。この地域の国々が結婚できる年齢をどのように統一し、女の子がまずは学校を卒業できるようにするにはどうすれば良いか意見を聞きたい。また、チャドには数 100 万人のスーダン難民がおり、これは人口問題であり、対処する必要がある

Fredrick Outa 議員（ケニア）：南スーダンの Ajal 議員が挙げたような法案を支持するよう、宗教者や伝統的な指導者に会って彼らに意識を持ってもらい、啓発することを勧めたい。また、アフリカで婚姻年齢を統一させる必要があるという意見に同意する。

Simon Moabi 議員（ボツワナ）・PAP 代表：PAP への質問に対して、PAP は諮問機関として、アフリカの戦争で荒廃した地域での「銃の制御」を推進している。決議に関しては、PAP は立法機関ではなく、あくまで諮問機関である。PAP には、各国のデータを収集し、行動方針について助言を行う委員会がある。国会議員とパートナー機関には、PAP が提言を実施するのを支援してもらいたい。決議案が法案として制

定されることは大きな成果であり、法案が承認されることを願っている。また、ICPD と AADPD の公約の実施など、決議を実行し、平和構築のための啓発を促進する必要がある。

東アフリカ各国の国会における女性の参政については、EALA 以外は国によって異なる。アフリカの平均は約 30%、ケニアは 28%、南スーダン 29%、タンザニア 26%。ルワンダ 61.3%である。従って、ジェンダー平等の点で、他の議会においてはルワンダを見習って一層の努力を行う必要がある。また、アフリカでは女性の大統領はタンザニアの Samia Suluhu 大統領 1 人しかいない。

Ndangiza Madina 議員（ルワンダ）：ルワンダでは大統領と国会議員の任期は 5 年である。アフリカの国会議員が法律を統一させることを提案したい。ルワンダでは、女の子が学校に行き、高等教育を修了できるようにするために結婚が認められているのは 21 歳であり、民事上の結婚は一夫一婦制である。

Marie Rose 前議員（カメルーン）：アフリカでは EALA が他の地域議会よりも積極的であるが、EALA が全加盟国で制定した法律を共有し、結婚年齢の統一などの課題を他の地域でも実施できるよう、他国にも共有して学ぶ機会を提供しているのか質問したい。なぜなら地域議会には独自の法律があり、例えば、西アフリカのほとんどの地域では、イスラム教の法律や一部の伝統的な慣習のもとで、一夫多妻制の結婚が認められている。

セッション 2：ICPD30 レビュープロセスと人口と開発に関するアディスアベバ宣言 10 周年（AADPD10）：未解決の課題と今後の方向性

Jyoti Tewari 氏・UNFPA ESARO

最新情報として以下の情報を共有したい。

1. 毎日 800 人の女性（2 分に 1 人の女性）が妊娠中または出産中に死亡している。
2. 約 25 億人の生殖年齢にあたる女性が、避妊具を利用できていない。
3. 女性の 3 分の 1 が生活の中で暴力を経験している。
4. 1 日 39,000 人の少女が 18 歳未満で結婚を強いられている。
5. 若者は権利・選択の問題に直面している。
6. 有害な慣習として、毎年 300 万人の少女が FGM の危険にさらされている。

50 以上のアフリカ諸国と大陸別の報告書に基づき、2019 年の ICPD25/AADPD5 レビューに関するアフリカの 88 の公約の進捗状況は以下の通りである。

1. アフリカでは妊産婦の死亡が 50%以上減少した。
2. 10 代の妊娠に関しては、15～19 歳の女性 1,000 人当たり 92 人が出産しており、彼女たちの潜在能力を最大限に発揮することを妨げている。
3. アフリカの女性 100 人中 36 人が、今までに身体的または性的暴力を経験している。
4. 世界避難民人口の 3 分の 1 以上がアフリカに住んでいる。

2023年11月7日～10日にザンビア・ルサカにおいて、アフリカ人口専門家委員会（APEC）と人口担当大臣によるAADPD10年レビューに関するフォローアップ会合が開催される。AADPDは、2013年10月3日～4日にアディスアベバで開催された人口と開発に関するアフリカ地域会議においてアフリカ閣僚によって採択され、2014年のアフリカ連合執行理事会でアフリカ諸国の首脳によって承認された。また、1994年以降、30年間に達成されたSRHRに関する以下の進捗を称賛する。

1. 法的枠組みにおけるSRHRの保護
2. 人口問題に対する十分な予算の配分
3. SRHR推進派の立場の保障

討議・Q&A

Agnès Kafula 議員（ナミビア）：国会議員がAU報告書を活用することで、これまでの成果を評価し、まだ実施されていない事柄を見直す必要がある。

Ndangiza Madina 議員（ルワンダ）：児童婚の危険性について市民に認識を持ってもらうために、地方への現地視察を実施することが重要である。また、10代の少女や若者全般に対して、SRHRの観点からソーシャルメディア上の情報に注意するよう指導することも重要である。10代の若者を避妊具の使用なしに性行為に誘い込むサイバー犯罪者が存在し、若者がそのような犯罪に巻き込まれないよう、家族による指導が必要である。

Priceness Kasune 議員（ザンビア）：AU報告書を国会議員に提出し、その内容を把握するとともに、国会議員の果たすべき役割をさらに議論するという考えを支持したい。

Promise Anurika Nwadigos 議員（ナイジェリア）：若者のために、失業、不十分な教育、ジェンダーの不平等について議論されたことを実行に移す必要がある。

Anthony Akol 議員（ウガンダ）：家族計画の不足、児童婚、貧困は、我々が対処すべき問題である。指導者たちは、就学中に妊娠した10代の少女たちに、出産後に学校に戻るよう奨励すべきである。また、男の子の側にも、女の子が妊娠しないようにきちんと指導する必要がある。貧困と闘うためには、人々の意識改革が必要であり、指導者である国会議員は、人々の意識を改革する手助けをすべきである。

Pemmy Majodina 議員（南アフリカ）：88の公約がどのように起草されたのか、また、実施するためにこれほど多くの公約を掲げることが現実的なのかを尋ねたい。また、紛争地域のように平和が欠如していれば、開発には繋がらない。

Jyoti Tewari 氏、UNFPA ESARO：提出されたAU報告書には、88の公約が以下の6分野にまとめられている。

1. 尊厳と平等
2. 保健
3. 居場所と流動性

4. ガバナンス
5. データと統計
6. パートナーシップと国際協力

セッション 3：ジェンダー配当の活用に向けた女性のエンパワーメントとリーダーシップ

Eurita Valeta 議員（マラウイ）

SDGs は、女性のエンパワーメントを「女性が潜在能力を発揮できるよう支援すること」と、「ジェンダー平等」(SDG5) と定義している。これは、女性のエンパワーメントが経済発展につながることを示している。女性が教育を受けることは、重要な意思決定の立場に女性が就けるようになるための戦略である。マラウイでは、初等教育の無償化を実施し、全ての人に質の高い教育を提供できるようにしている (SDG4)。例えば、マラウイ政府は高等教育に融資を行っており、その結果、マラウイ初の女性国会議長である Catherine Gothani-Hara 議長と、初の女性警察署長である Mary Nangwale 氏が誕生した。

女性と少女のエンパワーメントは、保健医療施設へのアクセス向上にもつながる (SDG3)。女性がより身近なところでより良い保健医療施設を利用できるようにするため、保健予算の増額が必要である。また、経済参加の面では、女性の経済的機会が拡大すれば、自国の経済発展への貢献度が高まる。

ジェンダー配当を活用するには、次のような多面的なアプローチが必要である。

1. 出生率の引き下げまたは家族計画法の使用は、女性の望まない出産を減らし、経済活動への参加を可能にする。
2. 在宅介護従事者のディーセントワークのための条件の促進。
3. 国連によれば、女性のリーダーシップは組織における協調性、貢献、及びコミットメントを高める。
4. より多くの女性がリーダーシップを発揮すれば、誰もが恩恵を受ける。
5. 女性を中心的地位に登用することで、男性との男女格差のバランスをとることができる。

Peter Okeyoh 議員（ウガンダ）

「女性が男性よりも優れたリーダーであるなら、なぜ女性が主導権を握らないのか」。調査結果によると、経済問題に関与している女性はわずか 30%であった。つまり、ジェンダー配当とは、女性と少女への経済投資を増やすことで実現できるであろう経済成長である。

ジェンダーエンパワーメントのためのウガンダ政策介入は以下の通り。

- 女性が生計を立て、個人の能力向上のために生産的な事業に従事できるよう支援するために、女性生活基金（Women Livelihood Fund）を設立した。

- 女性の尊厳を守る法律の制定：性犯罪法、家族法、FGM 等の有害な慣行の禁止に関する法律を制定した。
- UNFPA の支援を受け、食料安全保障・人口・開発に関するウガンダ議員連盟（UPFFSP&D）は、女性のエンパワーメント、10 代の妊娠、児童婚、学校中退などの問題に関する一連のコミュニティ活動を実施した。
- 2021 年、ウガンダ政府は、在学中に妊娠した少女が夢を実現できるよう、出産後に教育を修了する機会を与える政策を採択した。

討議・Q&A

Elvis Donkoh 議員（ガーナ）：女性は重要な地位に就く機会を与えられるべきであり、軽視されるべきではない。「女性は聖職者やイマーム（イスラム教で「指導者」）になれないので、国会議長や国会議員、国家元首にはなれない」という考え方を変えるべきである。

Fatuma Ndongiza 議員（タンザニア）：ジェンダー平等に関する SDG5 の実現にあたり、タンザニアは女性が国家元首として就任し、彼女はタンザニアの女性たちが衛生的な水を簡単に手に入れられるようにする必要があると強調している。

Majur Babur Ajal 議員（南スーダン）：女性の地位向上は数字の面でも重要であり、例えば、南スーダンの国会議員に占める女性の割合はわずか 12%であった。しかし、女性は男性よりも汚職が少なく、女性の方が男性よりも高い生産性を示している地域もある。例えば、農村部では、家の屋根葺きに必要なお草を採取するのは女性である。

Jerónima Agostinho 議員（モザンビーク）：モザンビークでは、10 代の若者の妊娠を取り締まる法律が制定され、彼女たちが教育を修了し、経済活動に積極的に参加できるようになった。2022 年には 国会議員の 42.4%が女性であった。

Fiarovana Lovanirina Célestin 議員（マダガスカル）：少女たちの復学を支援し、質の高い医療を提供し、彼女たちに権限が与えられるような政治的決定を行うために、どのような支援がなされたのか。

Peter Okeyoh 議員（ウガンダ）：ウガンダでは国会議長が女性であり、ウガンダの STANBIC 銀行の CEO も女性であり、調査によると、女性が経営に携わっている銀行は、男性が経営している銀行よりも業績が良かった。

セッション 4：人口ボーナスの活用、若者への投資

Sebastian Kapufi 議員（タンザニア）

国連は、2022 年のタンザニアの人口を 6,330 万人と推定している。この人口の約 64%が 25 歳未満の若者であり、これらの若者がエンパワーメントされれば、タンザニアは経済的に成長することができる。

タンザニアは ICPD25 と AADPD10 の公約に関して、以下の取り組みを行った。

1. 雇用創出：初等教育、中等教育、高等教育への投資。
2. 若者を雇用するための小規模・大規模な事業拡大。
3. 若者への 10%融資資金。
4. 若者の農業参加を奨励する方法として、800 人の若者が農業訓練に参加。

Princess Kasune 議員（ザンビア）

人口ボーナスを「急速な出生率の低下により、従属人口に対する生産年齢人口の比率が大幅に増加し、この変化が教育、技能開発、保健、雇用創出、ガバナンスの改善への持続可能な投資を伴う場合の経済的利益」と定義した。ザンビアの人口は 2000 年に 990 万人、2022 年には 1,990 万人であった。従って、2000 年から 2022 年の 20 年間に、人口は倍増した。UNFPA によると、ザンビアの年間人口増加率は 2020 年から 2035 年の間に年平均 2.8%となり、その結果、人口の 60%が若年層になった。初等・中等教育を無償化するという政府の新政策（2021 年）に従い、230 万人以上の子どもたちが復学し、無償教育を受けた。さらに、財務省は 2023 年に、業務改善、学生ローンと奨学金の増加に 720 万米ドルを割り当てた。

ザンビアでは、2024 年の選挙区開発基金（Constituency Development Fund: CDF）が年間 3,060 万クワチャ（約 1,339,117.40 米ドル）に増額され、このうち 20%が女性と若者のエンパワーメントのために確保された。アフリカの国会議員にとって、AU の人口ボーナスのロードマップの主要な焦点は次の 4 つの柱である。

1. 雇用と起業家精神
2. 教育と技能開発
3. 健康と福祉
4. 権利、ガバナンス、若者のエンパワーメント

アフリカの人口の過半数を占める若者のエンパワーメントという第 4 の柱に焦点を当てる必要がある。

Larry Younqoui 議員（リベリア）

2023 年のリベリアの出生率は 4.0 であった。乳児死亡率は 2022 年の出生 1,000 人当たり 48.317 人から 2.97%減少し、2023 年には出生 1,000 人当たり 46.882 人となった。失業率は 15 歳～24 歳の若者の間で高くなっている。戦争から復興したリベリアでは、人口の 63%が 25 歳未満であった。提言として若者の雇用を促進するため、職業教育への予算を増やし、職業訓練校を増やす必要がある。

討議・Q&A

Peter Okeyoh 議員（ウガンダ）：農業開発計画の中で、若者に融資をする際、どのような金利が適用されたのか、また、家畜、作物、魚の養殖など、どの分野の農業に融資されたのか、また CDF はウガンダで不正利用されたため、口座取引が停止されている。ザンビアは CDF をどのように管理しているか尋ねたい。

Tshoganetso Leuwe 議員（ボツワナ）：若者を農業に従事させることは、若者が直面している雇用問題を解決する方法の 1 つである。若者を農業に引き込むような農業活動を展開することが重要である。

Mukabalisa Germaine 議員（ルワンダ）：日々増加している若者の失業率を下げるために、国会議員は何をすべきか。

Abdul-Rahsid Hassan Pelpuo 議員（ガーナ）：もし若者がローンを返せない場合はどうなるのか。今後ザンビアでは、より多くの統計データを提示する必要がある。ザンビアにとって重要なのは、進展の見られた地域の統計を示すことである。例えば、5 年前はこの程度の状況だったが、2023 年にはこうなっている、といった具合である。2023 年までに約 4,000 人の看護師がガーナからイギリス、アメリカ、ヨーロッパへ出稼ぎに行った。課題は、若者の他国への流出を抑える方法である。また、タンザニアでは、若者が農業に従事するよう促すために、どのような取り組みが行われたか尋ねたい。

Sebastian Kapufi 議員（タンザニア）：タンザニアは若者のために農地を確保している。また、農業研修に関心のある若者だけを選抜することも重要である。研修後、若者たちはそれぞれ最大 10 エーカーの土地を与えられ、トウモロコシや米など様々な作物を生産する。大学を卒業した若者は融資を受け、自分のビジネスを始めることもできる。農業生産において、アメリカの投資家はタンザニアと提携している。

Larry Younquoi 議員（リベリア）：もし若者がローンを返済できなかった場合にはどうするのか、という質問に対しては、若者が与えられた機会を正しく活用できるよう、金銭管理のスキルを身につけることが重要である。

Princess Kasune 議員（ザンビア）：CDF の不正利用を避けるために、CDF は国会議員の管理下には置かれない。国会議員は各選挙区の CDF 委員会に出席し、CDF の活用方法を決定するのみである。また、地方自治省は CDF の監査と査定を通じて、資金の説明責任を果たす。

Issa Mardo Djabir 議員（チャド）：アフリカには広大な土地があり、国会議員は雇用を創出し、AU の 4 つの柱を達成する機会を見出すことができる。

2 日目：会議（2023 年 10 月 25 日）

国会議員から、2014 年以降のアフリカにおける人口と開発に関するアディスアベバ宣言と、その後に発表された会議報告書について、より詳しい説明を求める声が上がった。これに対して、UNFPA の Jyoti Tewari 氏が以下の通り説明した。

Jyoti Tewari 氏・UNFPA ESARO

SRHR が重要な理由は、少女たちが学校に行けず、教育を受けられない場合、これは女の子のエンパワメントの失敗に繋がる。しかし、彼女たちが学校に通い、仕事に就くことができれば、女の子がエンパワメントされ、人口ボーナスに繋がる。

UNFPA ESARO によると、東・南部アフリカの人口は 2023 年に 6 億 7,100 万人と推定されている。1994 年には 3 億 1,200 万人であったが、2021 年には 6 億 3,300 万人になり、人口の 60%以上が 25 歳未満である。2022-2025 年 UNFPA 戦略計画では、東・南部アフリカ地域で注目すべき進展が見られた。誰一人取り残さないための 9 つのサービスへの平等なアクセスと進捗状況は以下の通りである。

1. 避妊法：2000 年以降、近代的方法が倍増した（15%～33%）
2. 出生 10 万人当たりの妊産婦死亡率は、2000 年の 712 人から 2020 年には 324 人へと 50% 減少した。
3. 中絶後の包括的なケアは改善されたが、施設は依然として不安定で不十分である。
4. HIV/AIDS の有病率は、2000 年の 9.8%から 2022 年には 7.7%に減少したが、若年層の新規感染が懸念されている。
5. GBV 及びその他の有害な慣行は、以前よりも多く報告されている。
6. 児童婚は 2002 年の 38%から 2023 年には 31%に減少した。
7. 癌を含む生殖に関連する疾病率は高まっており、特に子宮頸癌が懸念されている。
8. 2～3%の女性が不妊症とされている。これは女性を支援するために重要な知識である
9. セクシュアル・ヘルスと精神的なウェルビーイング：若者のメンタルヘルス、ウェルビーイングの向上は重要であり、関連施設を整備する必要がある。

この 9 分野は SDGs に関連している。

セッション 5：人口と開発に関するアディスアベバ宣言（AADPD）の達成に向けた国会議会活動の推進に関する宣言採択に向けた討議

宣言文案に関する議論ののち、参加者によって全会一致で採択された。（付録 1）

閉会式

挨拶：Jetn Sirathranont 議員（タイ）

キガリ会議を主催した APDA、FPA、UNFPA、ルワンダ国会に感謝の意を表したい。この会議は 2013 年 アディスアババ行動目標の実施をフォローアップする上で重要なものであった。AFPPD 事務総長として、キガリ会議は、ICPD30 や SDGs など、アフリカ・アジア地域における開発アジェンダや人口問題を学ぶ機会となった。1994 年のカイロ会議から 30 年が経ち、未達成の課題に取り組む必要がある。特に SRHR のコミットメントを完了することが重要である。また、ICPD30 のコミットメントが早急に達成されなければ、2030 年までに私たちが望むアフリカの目標は達成されない。また、キガリでの対話を受けて、国会議員が議会や選挙区に戻った後に ICPD30 及び AADPD10 を実施する必要がある。また、女性や子どもの問題など、上記の問題について政府への監督体制を強化する必要がある。

挨拶：池上清子 APDA 事務局長

ICPD の実施状況をレビューした参加者に祝意を表したい。私自身、1994 年のカイロ会議に出席した。2100 年までの世界の人口増加の 90%をアフリカが占めるが、アジアは依然として世界最大の人口を抱えるであろう。アフリカとアジアの協力は、両地域における ICPD30 実施の成功の鍵である。キガリ宣言は ICPD30 公約の未達成の課題を実施するために必要なものを捉えている。また目標を達成するためには資源の動員が重要であり、従って国際協力が重要である。この点で、国民の代表としての国会議員は、ICPD 実施の鍵を握っている。

挨拶：Adul-Rashid Hassan Pelpuo 議員（ガーナ）・FPA 議長

アフリカの人口増加に対応するためのインフラの必要性を改めて強調したい。例えば、1957 年に 700 万人だったガーナの人口は、1963 年の独立時、1,000 万人であった。2023 年のガーナでは 3,300 万人、タンザニアの人口は 6,300 万人であった。中東での紛争はアフリカに影響を与えるであろう。そこで、国連を通じて、パレスチナとイスラエルとの間の敵対関係を終わらせるよう世界に呼びかけたい。会議の議論に参加議員が積極的かつ献身的であったこと、そしてルワンダ国会が本会議を開催したことに感謝の意を表したい。国会議員に対し、人口問題が国家予算に盛り込まれるよう、政府への啓発と監視を続けるよう促したい。

閉会宣言：Bideri John Bonds 議員（ルワンダ）

キガリ宣言について、合意に達した全ての国会議員に祝意を表したい。しかし一部のアジア・アフリカ諸国がキガリ会議に参加しなかったのは残念であり、参加者が学んだ知識を共有する方法があることを期待している。またこの議論は、若者のエンパワーメントと投資のための解決策を見つけるのに役立つものであった。学校、インフラ、質の高い教育、そして女性への投資は非常に重要である。そしてルワンダが会議を共催したことを嬉しく思う。また、国会議員が国民の健康と尊厳を守るために SRHR の必要性を強調する重要性を

改めて主張したい。さらに COVID-19 やロシアとウクライナの戦争の悪影響を軽減するための行動を拡大するようお願いしたい。

FPA 議長に対し、FPA 憲章及び戦略計画を公表し、ガーナのアクラに事務局を設置することが提案された前進を祝したい。キガリ会議の議論が、ICPD 及び AADPD の行動目標における未完の課題の実施に役立ち、誰一人取り残されないことを期待する。

3 日目：現地視察（2023 年 10 月 26 日）

視察団は、キガリにある Africa Youth and Adolescents Network on Population and Development（Afriyan）を訪問した。Afriyan は 2005 年にザンビアで設立され、その後他の国にも広がっている。国会議員は、ルワンダが若者のための社会的な生活スキルに関する研修や、資金へのアクセスなど、様々な面での訓練を通じて、どのように若者に力を与えているかを学ぶ機会を得た。その後、参加者はルワンダ国会議事堂に赴き、国政担当の Edda Mukabagwiza 副議長と交流した。

まとめ

キガリ会議は、アフリカ・アジアの国会議員が、ICPD 及び AADPD の実施を促進する法的枠組みに関する現状を議論し、意見交換するための場を提供した。国会議員や UNFPA により、2013 年アディスアベバ宣言の 88 の公約に関して、国際協力やパートナーシップによるアフリカでの進展が共有された。Abdul-Rahsid Hassan Pelpuo FPA 議長は、これら 7 つの分野の統計を次回の会議で取り上げ、進捗状況を共有するよう奨励した。

ICPD30 及び AADPD10 に向けたアフリカ・アジア国会議員会議

2023 年 10 月 24~26 日

ルワンダ・キガリ

キガリ宣言 2023

前文：2023 年 10 月 24~26 日に、ルワンダ国会主催の ICPD30 と AADPD10 に向けたアフリカ・アジア国会議員会議が開催された。参加者は、国会議員、人口・開発分野の専門家であった。

会議の結論として、我々参加者は、2022 年 10 月 28 日、世界人口が 80 億人に達した。また、全ての人が、適切、公平、迅速に、支払い可能な費用でセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（SRHR）を含む、保健サービスを利用できるようにし、権利として健康を確保することの重要性を認識し、ICPD と AADPD の公約及びその他の項目に従って SRHR のためにアフリカが行ってきた政策を評価する。アフリカは、SRHR サービス、高い非識字率、食料不足及び飢餓、高水準の罹患率及び死亡率、人口増加に対する基本的ニーズに応えるという課題に依然として取り組んでいる。人口と開発に関する様々な議定書、条約及び宣言に留意し、署名国として、国内での実施と強化に尽力している。

国民の代表として国会議員は、立法、予算編成、政策の監督において大きな役割を果たしている。会議宣言は、人々の生活向上に資するものである。女性には特有の課題があり、女性の意思決定プロセスへの参画を推進し、平等な経済的機会へのアクセスや、妊産婦・新生児・子どものヘルスケアを含む質の高い SRH サービスへのアクセス、避妊手段と家族計画のニーズを満たし、GBV、女性性器切除（FGM）、児童婚などの有害な慣行の防止などに対処する必要がある。

アフリカの大多数の国では、若者が人口の過半数を占めており、若者のエンパワーメントと開発への投資は、失業、学校中退、早婚や 10 代の妊娠など、多くの人口開発への課題の対処に繋がる。

コミットメント：

1. 健康への権利を尊重、保護、促進することにより、SRH サービスの包括的な改善のための ICPD 及び AADPD の公約の完全な実施に向けた啓発を再活性化する。
2. 国内の議員ネットワークを強化し、国民に良質なサービスを提供するための介入策を改善し、誰一人取り残さないことを目指し、政治的コミットメントを確立する。
3. 世界人口デー、世界避妊デー、国際女性デー、国際青少年デーなどの国際的な記念日を利用し、ICPD30 と AADPD10 の実施を加速するため、再度活動を促進し、直面する課題を検討し、対策を講じるよう呼びかける。

4. 若者のエンパワーメントと開発プログラムを提唱し、職業訓練や就労への投資拡大、質の高い国民皆教育、青少年の SRHR に関する情報とサービスへの公平なアクセス、持続可能な農業と働きがいのある人間らしい仕事へのアクセス拡大を確保する。
5. 政府の説明責任を迫り、誰もが利用できる SRHR、質の高い平等な教育、インフラ、食料安全保障、気候変動問題に対する認識、さらに明確な対処方法を含む、持続可能な UHC を達成するための政策や規制の策定を提唱する。
6. SRHR を含むより良い保健サービスの需要・供給と、その活用を拡大するために、実績ある行動変容コミュニケーション（BCC）キャンペーンと、権利に基づく公共政策介入を通じて、国民の意識と考え方の変容を促進する。
7. 児童婚、女性器切除、危険な中絶、女性と女児の尊厳を損なう全ての慣行に一切寛容せず、法律と政策の枠組みを整備し、その実施と執行を強化する。
8. アフリカとアジア間の南南協力を通じた人口と開発の課題に対処するための介入策を特定し、推進するために、関係者や開発パートナーと協力する。
9. ICPD 及び AADPD の公約の重要性について、国会議員及びその他の指導的立場の人々の理解を深めるため、世界・地域及び国内のパートナーと協力する。
10. アフリカとアジアの政府に対し、人口と開発の課題を認識し、対処するよう主張する。我々の目標は、人々の尊厳と権利を持続可能な開発の中心に据える ICPD アジェンダを尊重し、保護し、促進することである。

以上

付録 2：会議プログラム

ICPD30 及び AADPD10 に向けたアフリカ・アジア国会議員会議

2023 年 10 月 24～26 日

23 October 2023	
	Arrival of Participants
24 October 2023: Meeting (Day 1)	
09:00-09:20	Registration (Venue: Pelican room, 2nd floor, M Hotel)
09:30-10:20	Opening Session (Venue: <i>Pelican room</i> , 2nd floor, M Hotel)
10:20-11:00	<p><u>Welcome Address [10 min]</u> Hon. Dr. Abdul-Rashid Hassan Pelpuo, MP Ghana; President of African Parliamentary Forum on Population and Development (FPA)</p> <p><u>Messages of support (5 to 7 minutes each - total 20 minutes):</u> Ms. Yukako Ochi, Deputy Chief of Mission, Chargé d’Affaires a.i Ambassador of Japan in Rwanda Mr. Kwabena Asante-Ntiamoah, Country Representative of UNFPA Rwanda</p> <p><u>Opening Statement:</u> The Right Honorable Donatille Mukabalisa, Speaker of the Chamber of Deputies, Rwanda</p>
	<p>Session 1: High Level Panel on the Role of parliamentarians (representative, legislative, budgetary, oversight and public opinion shaping roles) on Implementation of ICPD30 and AADPD for Sustainable Development [30 minutes]</p> <p><u>Session Speaker:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Hon. Simon Moabi, Representative from the Pan African Parliament • Hon. Rosie Bistoquet, Chair of SADC PF • Hon. Amb. Fatuma Ndongiza, Representative from EALA • Hon. Fredrick Outa, Vice Chair of FPA - 10 actions from the last consultation
11:00 -11:30	Group Photo & Coffee Break
11:30-13:00	<p>Session 2: ICPD30 review process and Addis Ababa Declaration on Population and Development (AADPD10): The Unfinished business and way forward</p> <p><u>Session Chair:</u> Hon. Pemmy Majodina, MP Republic of South Africa</p> <ul style="list-style-type: none"> • Global Update: Mr. Jyoti Tewari, UNFPA ESARO, on behalf of Ms. Ragaa Said, Strategic Partnerships Adviser for CSOs and Parliamentarians, UNFPA [20 min] <p>Discussion</p>
13:00- 14:00	Lunch
14:00-15:30	<p>Session 3: Women Empowerment and Leadership to Harness Gender Dividend</p> <p><u>Session Chair:</u> Hon. Ndongiza Madina, MP Rwanda</p>

	<ul style="list-style-type: none"> • Hon. Eurita Valeta, MP Malawi [20 min] • Hon. Peter Okeyoh, MP Uganda [20 mins] <p>Discussion</p>
15:30-16:00	Coffee Break
16:00-17:00	<p>Session 4: Harnessing Demographic Dividend- Investment in young people</p> <p><u>Session Chair:</u> Hon. Issa Mardo, MP Chad</p> <ul style="list-style-type: none"> • Conversation starter: UNFPA • Hon. Sebastian Kapufi, MP Tanzania [20 min] • Hon. Princess Kasune, MP Zambia [20 min] • Hon. Larry Younqoui, MP Liberia [20 min] <p>Discussion [20 min]</p>
25 October 2023 Meeting (Day 2)	
09:30-11:30	<p>Session 5: Discussion for the Adoption of Recommendations regarding scaling up Parliamentary Action to address the Unfinished business of Addis Ababa Declaration on Population and Development (AADPD10)</p> <p><u>Session Chair:</u> Hon. Fredrick Outa, Chief Administrative Secretary, Ministry of mining, blue economy and Maritime Affairs of Kenya, Vice-President of FPA</p>
11:30-12:00	Coffee Break
12:00-13:00	<p>Closing Session</p> <ul style="list-style-type: none"> • Hon. Dr Jetn Sirathranont, Senator Thailand, Secretary General of AFPPD • Hon. Abdul-Rashid Hassan Pelpuo, MP Ghana; President of African Parliamentary Forum on Population and Development (FPA) • Dr. Kiyoko Ikegami, Executive Director/Secretary General of APDA <p><u>Closing Statement:</u> Hon. Bideri John Bonds, MP Rwanda</p>
12:45-14:00	Lunch
26 October 2023: Study Visit (Day 3)	
08:50-09:00	Meeting at the Lobby
09:00-09:30	Travel to the first visit
09:30-11:00	Visiting & briefing
11:00-11:30	Travel to restaurant
11:30-13:00	Lunch
13:00-13:30	Travel to the Parliament of Rwanda
13:30-14:00	Courtesy visit and briefing
14:00-14:40	Travel back to hotel
27 October 2023: Departure	
	Departure of Participants

付録 3 : 参加者リスト

Participants' List					
	TITLE	NAME	COUNTRY		Region
1	Hon.	Ammar Oulmi	Algeria	MP	North Africa
2	Hon.	Tshoganetso Leuwe	Botswana	MP	Africa
3	Hon.	Marie Rose Nguini Effa	Cameroon	Former MP	Africa
4	Hon.	Issa Mardo Djabir	Chad	MP	Africa
5	Mr.	Hassan Omar	Djibouti	Adviser of the Minister of Foreign Affairs and International Cooperation, Executive Committee, Former MP	Africa
6	Hon.	Abdelhady Elkasbey	Egypt	MP	North Africa
7	Hon.	Zemene Dessalegn	Ethiopia	MP	Africa
8	Mr.	Estifanos Alemayehu	Ethiopia	Chief protocol officer	Africa
9	Hon. Dr.	Abdul-Rahsid Hassan Pelpuo	Ghana	MP, President of FPA	Africa
10	Hon.	Elvis Donkoh	Ghana	MP	Africa
11	Hon.	Fredrick Outa	Kenya	Chief Administrative Secretary, Ministry of Mining, Blue Economy and Maritime Affairs, Vice-President of FPA	Africa
12	Hon.	Mope Khati	Lesotho	MP	SADC
13	Hon.	Larry Younquoi	Liberia	MP	Africa
14	Hon.	Fiarovana Lovanirina Célestin	Madagascar	MP	SADC
15	Hon.	Eurita Valeta	Malawi	MP	Africa
16	Hon.	Jerónima Agostinho	Mozambique	MP	SADC
17	Hon.	Agnes Mbingana Kafula	Namibia	MP	SADC
18	Ms.	Paulina Kanguatjivi	Namibia	SADC PF Secretariat	SADC
19	Mr.	Andreas Shivute	Namibia		Africa
20	Hon.	Promise Anurika Nwadigos	Nigeria	MP, President of the International Youth Parliament (IYP)	Africa
21	Hon. Dr.	Zainab Gimba	Nigeria	MP, FPA ExCom member	Africa
22	Hon.	Aboubakary Ngaide	Senegal	MP	Africa
23	Hon.	Rosie Bistoquet	Seychelles	MP, Chair of SADC PF	SADC
24	Hon.	Pemmy Majodina	South Africa	MP, FPA ExCom member	Africa
25	Hon.	Majur Babur Ajal	South Sudan	MP	Africa
26	Hon.	Cassim Hassan Haji	Tanzania	MP, (Vice Chair)	SADC
27	Hon. Amb	Fatuma Ndongiza	Tanzania	MP, representative from East Africa Legislative Assembly	Africa

28	Hon.	Sebastian Kapufi	Tanzania	MP, Chair of TAPPD	Africa
29	Mr.	Jovitus Nkevamigambi	Tanzania		Africa
30	Hon.Dr.	Jetn Sirathranont	Thailand	MP	Asia
31	Hon.	Nabith Thabet	Tunisia	MP	North Africa
32	Hon.	Okeyoh Peter	Uganda	MP	Africa
33	Hon.	Anthony Akol	Uganda	MP	Africa
34	Hon.	Maneno Zumura	Uganda	MP	Africa
35	Hon.	Princess Kasune	Zambia	MP, ZAPPD Chair	Africa
36	Mr.	Anthony K Mpolokoso	Zambia	Principal Clerk, Public and International Relations, National Assembly of Zambia	Africa
37	Hon.	Goodluck Kwaramba	Zimbabwe	Former MP,	Africa
38	Hon.	Joseph Ntakirutimana		Speaker of the East African Legislative Assembly (EALA), East African Legislative Assembly, East African Community (EAC)	EAC/EALA
39	Mr.	Jovitus Nkevamigambi		Speaker of the East African Legislative Assembly (EALA), East African Legislative Assembly, East African Community (EAC)	EAC/EALA
40	Hon.	Wawa Dahab		Pan African Parliamentarian Forum	PAP
41	Hon.	Gali Massa Harou		Pan African Parliamentarian Forum	PAP
42	Hon.	Afetse Yao Dotse	Togo	Pan African Parliamentarian Forum	PAP
43	Hon.	Simon Moabi	Botswana	Pan African Parliamentarian Forum	PAP
44	Hon.	Lucia Maria Mendes Gonçalves dos Passos		Pan African Parliamentarian Forum	PAP
45	Hon.	Galal Nassir		Pan African Parliamentarian Forum	PAP
Rwandan MP					
1	Hon.	Donatille Mukabalisa	Rwanda	Speaker of the Chamber of Deputies	
2	Hon.	Ndangiza Madina	Rwanda	MP	
3	Hon.	Bideri John Bonds	Rwanda	MP	
4	Hon.	Bugingo Emmanuel	Rwanda	MP	
5	Hon.	Mukabalisa Germaine	Rwanda	MP	
6	Hon.	Mukabikino Jeanne Henriette	Rwanda	MP	
NGOs/Observer					
1	Ms.	Yukako Ochi	Japan	Deputy Chief of Mission, Charge d' Affaires a.i Ambassador of Japan in Rwanda	
UNFPA					
1	Dr.	Faredrick Okwayo		UNFPA ESARO	
2	Mr.	Kwabena Asante- Ntiamoah	Rwanda	Country Representative of UNFPA Rwanda	
3	Ms.	Ragaa Said		Strategic Partnerships Adviser for CSOs and Parliamentarians	(ONLINE)

APDA/AFPPD					
1	Dr.	Ikegami Kiyoko	Japan	Secretary-General; Executive Director of APDA	Asia
2	Dr.	Farrukh Usmonov	Japan	APDA officer	Asia
Coordinators					
1	Mr.	Wamala Musa Buyungo	Uganda	FPA Coordinator	Africa
2	Mr.	Rubibi Olivier	Rwanda	Local coordinator	Africa
3	Dr.	Mohammed Al Smadi	Jordan	Secretary General of FAPPD	North Africa

主催

公益財団法人 アジア人口・開発協会 (APDA)

ルワンダ国会

協賛

日本信託基金 (JTF)

国連人口基金 (UNFPA)

協力

国際家族計画連盟 (IPPF)

